

講義時間の適切性について①

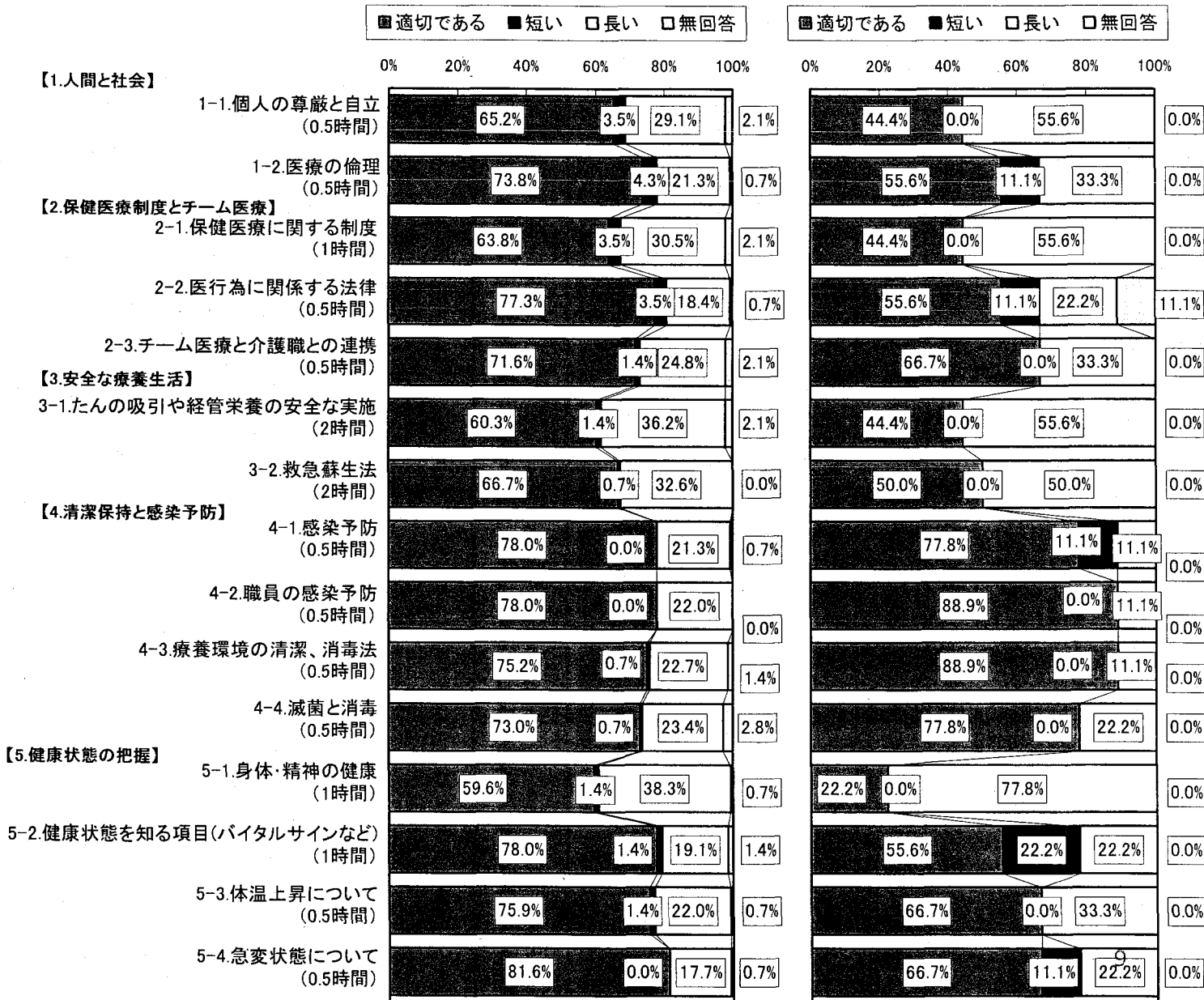
介護職員 (N=141)

指導者 (N=8~12)*

*各講義を担当した指導者数

○介護職員では、
 ・「適切である」が6割を超えた項目が約8割であった。
 ・「長い」と回答した割合が高い項目は、6-7「たんの吸引 事前説明(声かけ)と同意、事後の確認」、8-6「成人と小児の経管栄養の違い」、8-9「経管栄養 事前説明(声かけ)と同意、事後の確認」などであった。
 ・「短い」と回答があった項目は、6-4「人工呼吸器と吸引」、8-1「消化器系のしくみとはたらき」などであった。

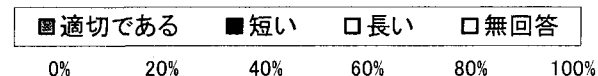
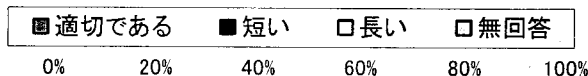
○指導者では、
 ・項目ごとの評価にばらつきがあった。
 ・「長い」と回答した割合が高い項目は、5-1「身体・精神の健康」、6-5「成人と小児の吸引の違い」などであった。
 ・「短い」と回答した割合が高い項目は、6-4「人工呼吸器と吸引」であった。



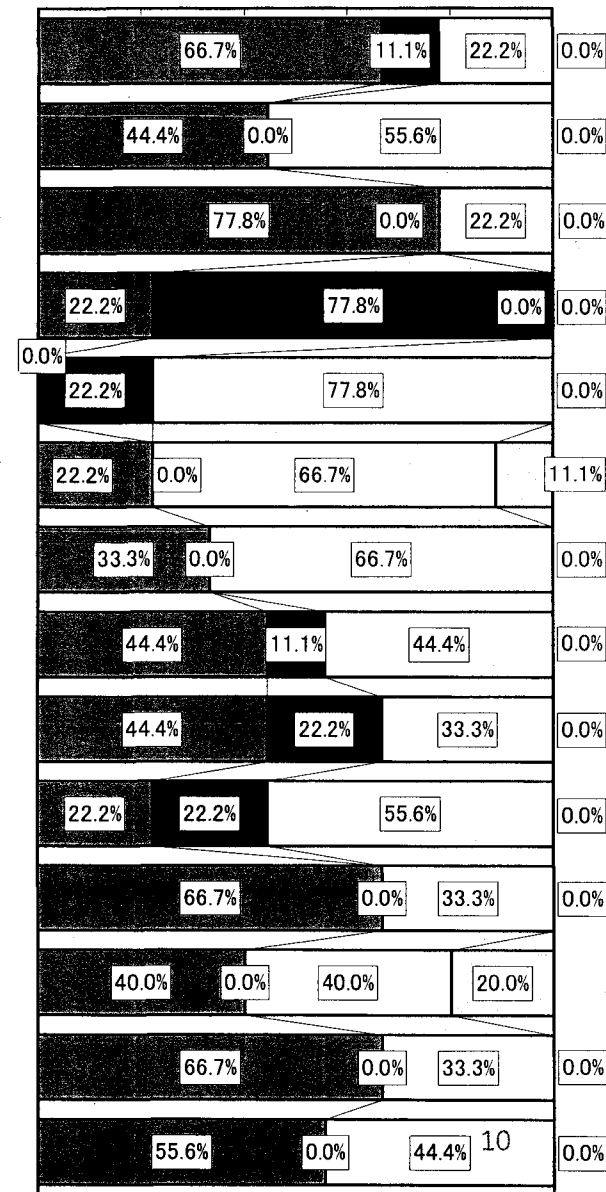
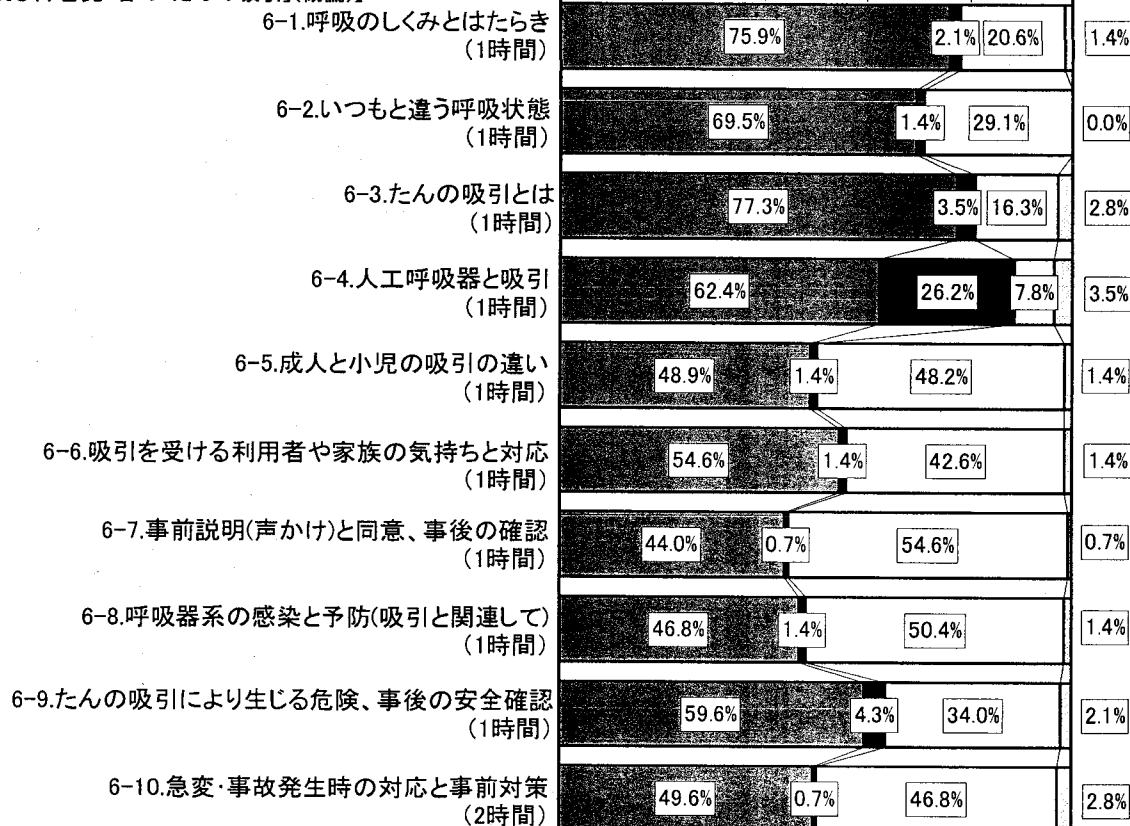
講義時間の適切性について②

介護職員 (N=141)

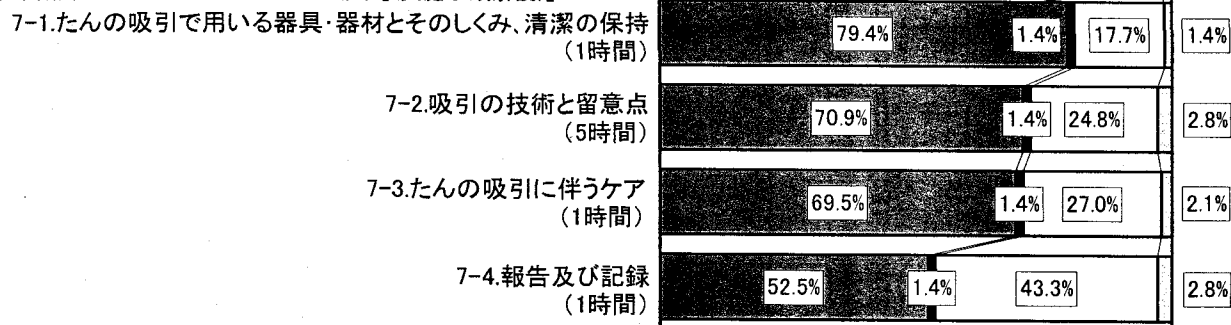
指導者 (N=8~12)*
*各講義を担当した指導者数



【6.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」(概論)】



【7.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」(実施手順解説)】

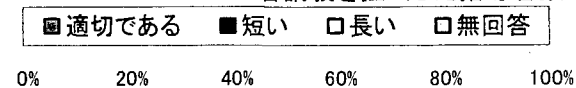
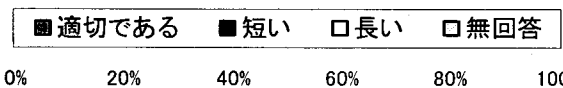


講義時間の適切性について③

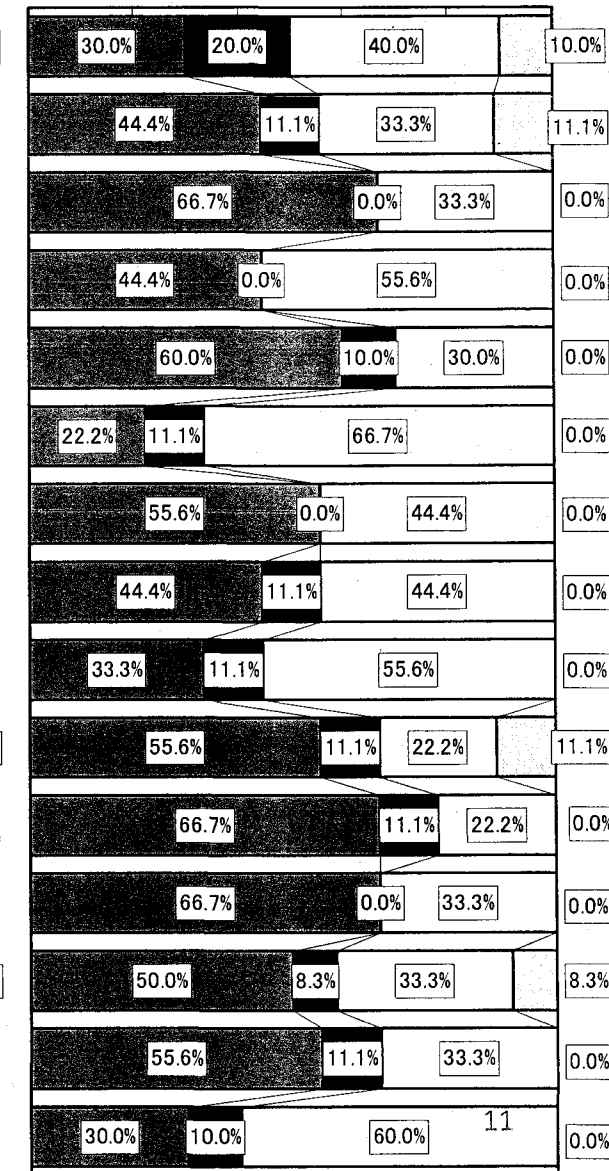
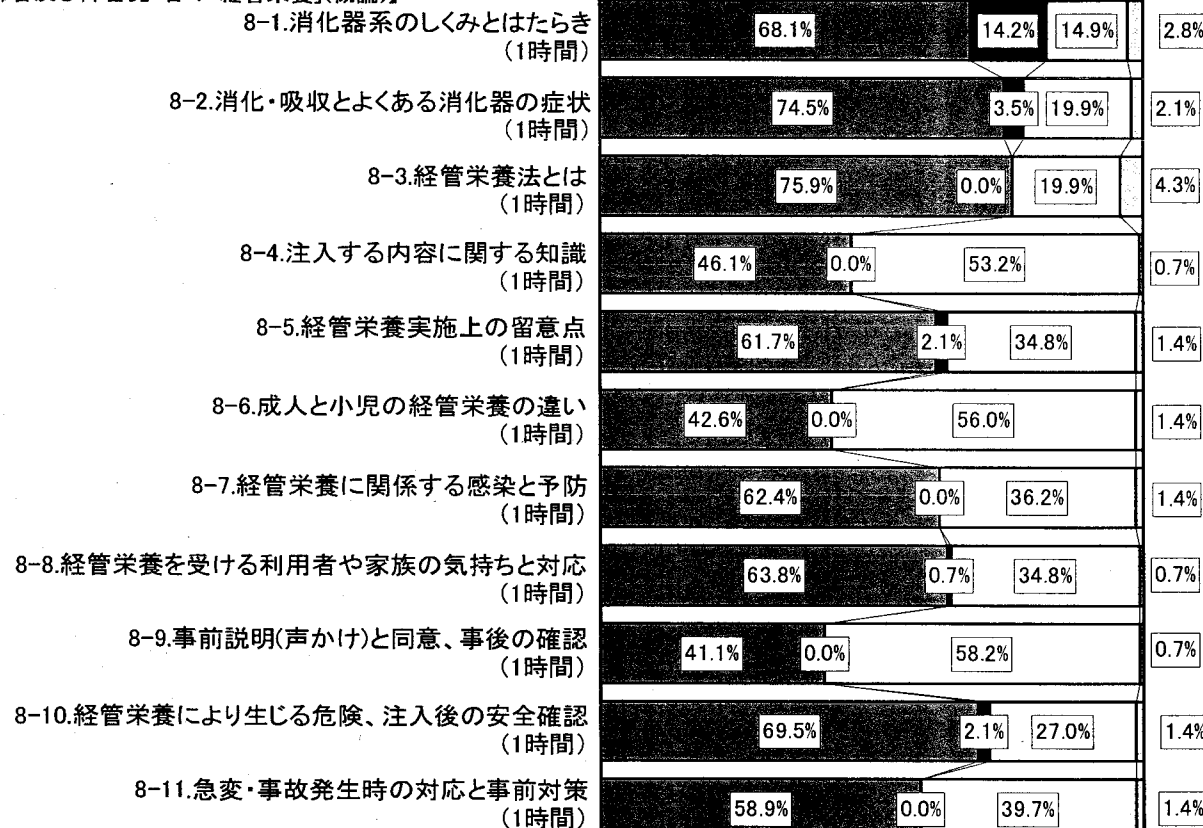
介護職員 (N=141)

指導者 (N=8~12)*

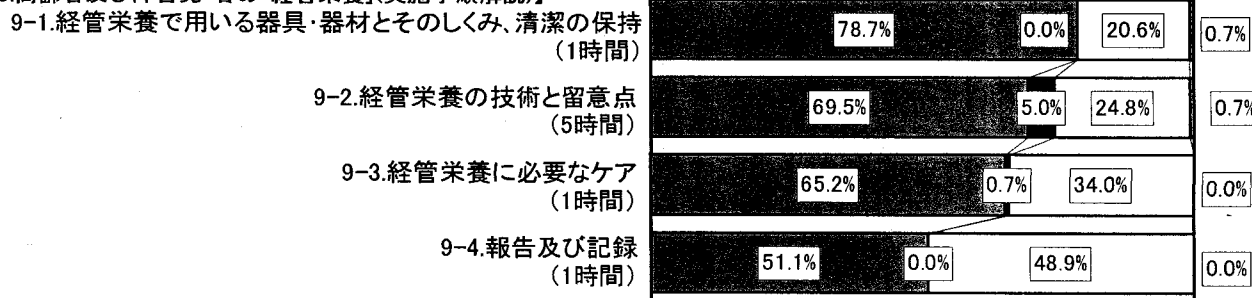
*各講義を担当した指導者数



【8.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(概論)】



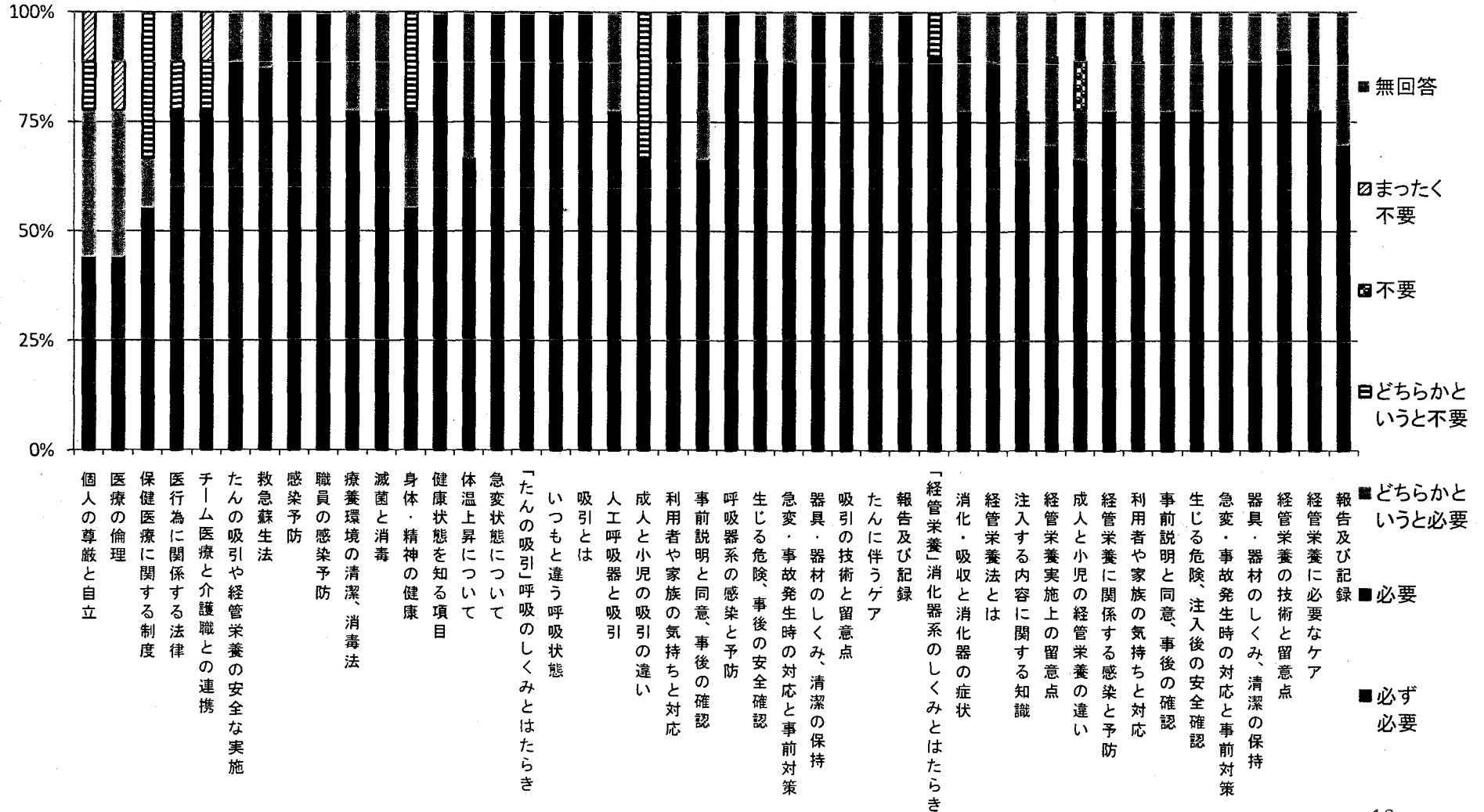
【9.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(実施手順解説)】



指導者からみた講義の必要性

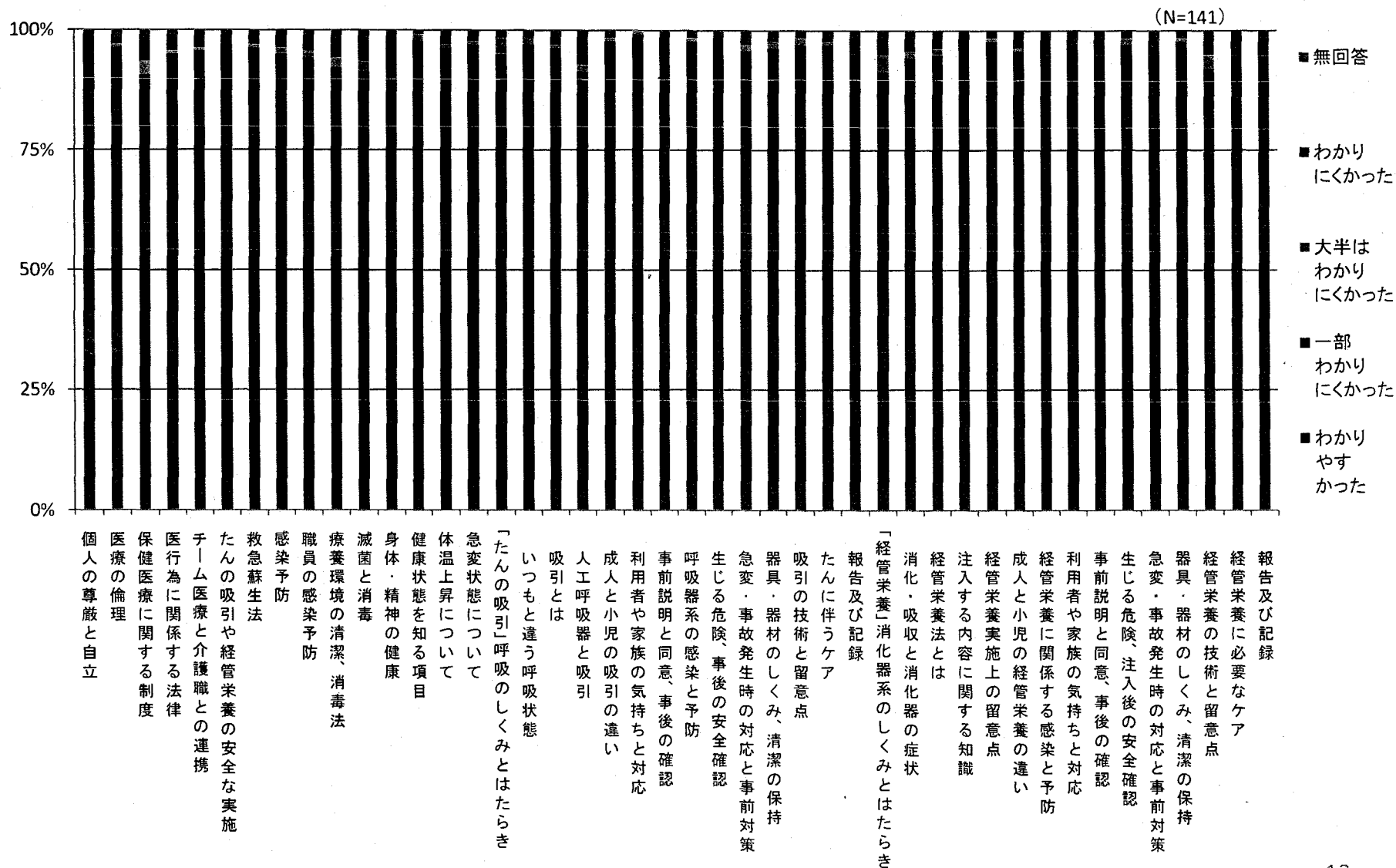
- 「個人の尊厳と自立」、「医療の倫理」、「保健医療に関する制度」などの項目で、「どちらかというと不要」、「まったく不要」があった。
- 「成人と小児の吸引の違い」では、他の項目と比べ「どちらかというと不要」が多かった。

(N=8~12)* *各講義を担当した指導者数



介護職員からみた指導者の講義の評価について

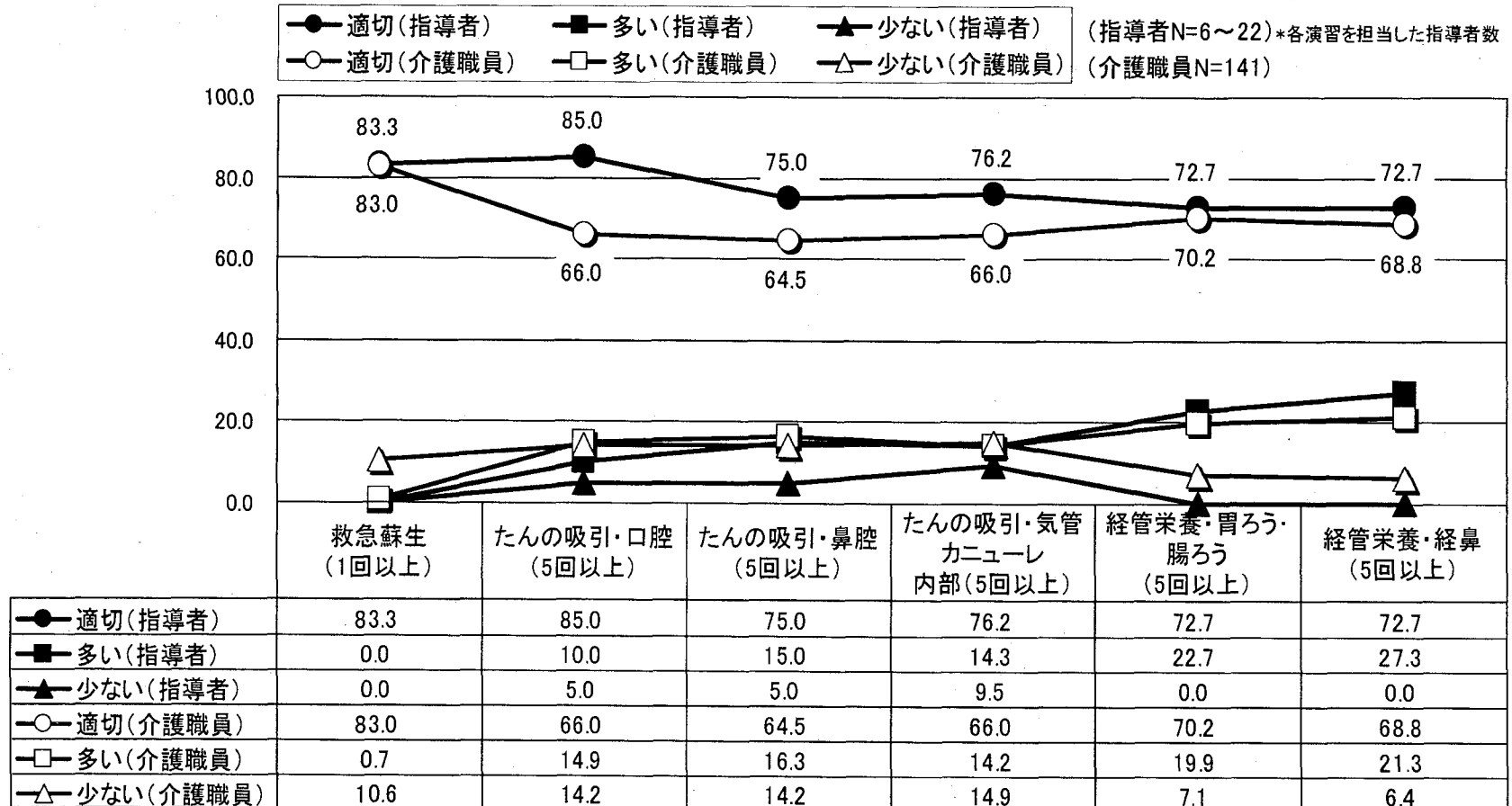
○ 他の項目とくらべ、「保健医療に関する制度」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」の項目で、「一部わかりにくかった」の割合が高かった。



介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 基本研修について

演習のケアごとの所定回数について「適切」と回答した者が、指導者は7割以上・介護職員は6割以上であった。

演習所定回数の適切さ



介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 評価①について

- ・評価①として、基本研修(50時間講義及びシミュレーター演習)における評価を行う。
- ・具体的な評価内容として、知識の確認(筆記試験)及び演習の指導者評価(プロセス評価票)をもとに、介護職員の知識と技術の習得状況を確認した。

知識の確認(筆記試験)

- 《基本方針》 介護職員が、利用者の心身の状態を正確に観察し、医師に報告し、その指示に基づいて、看護職員と連携しながら、たんの吸引及び経管栄養を安全、安楽かつ効果的に実施できる能力が評価されること
- 《出題形式》 客観式問題(四肢択一)
- 《出題数》 50問
- 《試験時間》 90分

指導者評価(プロセス評価票)

- 《基本方針》 介護職員が、たんの吸引及び経管栄養について、シミュレーターを用いて、効果的に演習でき、習得した技術が適正に評価されること
- 《評価方法》 介護職員が、吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部)、経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)のケアごとにシミュレーターでの演習を実施し、指導者がケアの実施の手引きに基づくプロセス評価票を用いて評価する

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 評価①について

知識の確認(筆記試験)結果では、全体的な正答率は高かったものの、「保健医療に関する制度」「清潔保持と感染予防」「消化器系のしくみとはたらき」といった出題範囲の正答率が低かったことから、介護職員の日常業務において意識することが少ない分野について、さらに重点的な学習が必要と考えられる

知識の確認(筆記試験)結果

- ・受験者 : 介護職員141名
- ・正答率 : 平均値96.1% (最高値:100% 最低値:78%)
- ・正答率90%以下の出題範囲について、下記に抜粋

出題範囲	平均正答率
保健医療に関する制度	70.9%
清潔保持と感染予防(滅菌と消毒)	70.9%
消化器系のしくみとはたらき	82.3%
経管栄養(胃ろう部)に必要なケア	83.7%
口腔内のたんの吸引の技術と留意点(状態観察)	87.9%
経管栄養の注入する内容に関する知識	87.9%

評価①結果については、評価委員会(太田秀樹委員長)において審査後、知識の確認(筆記試験)の成績下位者は個別に再学習し、指導者からの口頭試問後に実地研修へと進行した。

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 評価①について

- ・指導者評価(プロセス評価票)結果では、介護職員が手順通り実施できるようになるまでの演習回数に幅があることから、その実施には個人差が大きいと考えられる。
- ・ケアごとの手順通り実施できるまでの演習回数の相違については、その行為の難易度よりも演習の方法や順序によるものが影響していると考えられる。

指導者評価(プロセス評価)結果

ケアの内容	たんの吸引			経管栄養(流動食)	
	口腔内 (うち口鼻マスクまたは 鼻マスク装着者)	鼻腔内 (うち口鼻マスクまたは 鼻マスク装着者)	気管カニューレ 内部 (うち人工呼吸器装着者)	胃ろう・腸ろう (うち半固形)	経鼻
実施団体数	7 (2)	7 (1)	7 (3)	7 (1)	7
介護職員数	141 (26)	141 (7)	141 (42)	140 (6)	140
初回手順回数	7 (4)	5 (4)	6 (6)	6 (2)	7
実施演習回数	11 (5)	7 (5)	8 (7)	8 (5)	7

※ 初回手順回数とは、指導者評価(プロセス評価票)の各評価項目が「初めて」全て「手順通り実施」となった最大回数のこと

※ 実施演習回数とは、指導者評価(プロセス評価票)が実施された演習回数の最大回数のこと

介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 実地研修について (進行中)

ケアごとの実施率については、気管カニューレ内部のたんの吸引(未着手59.6%)及び経鼻経管栄養(未着手42.2%)が他ケアと比較して低率で進行している。

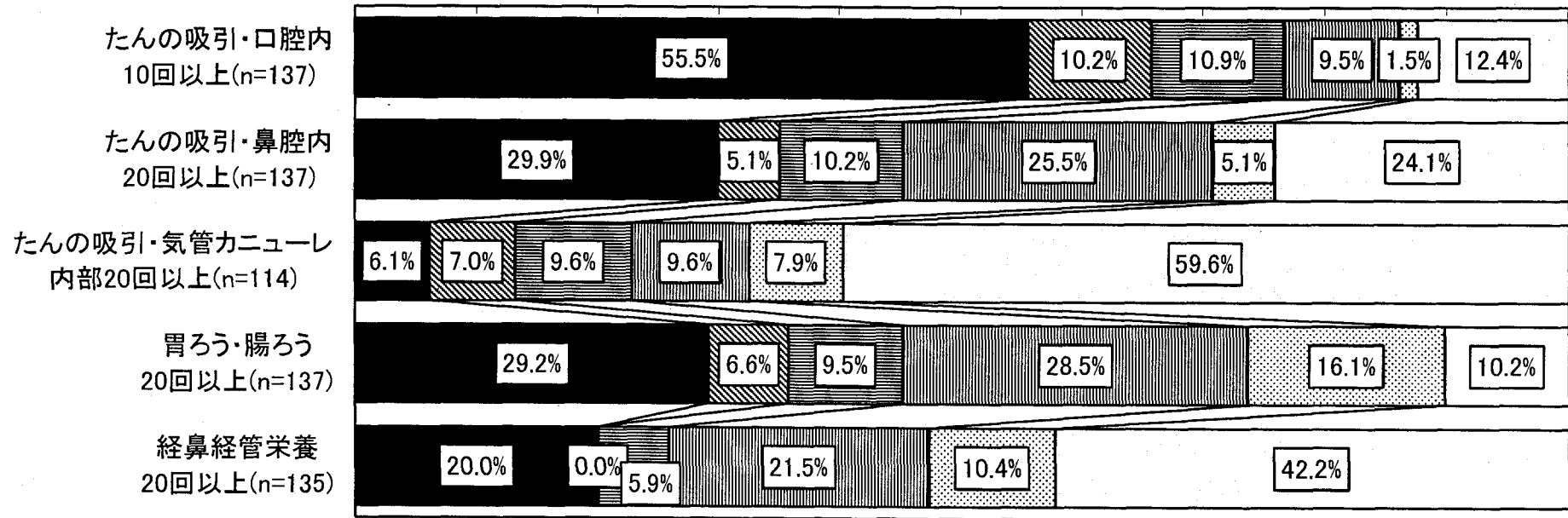
日時：平成23年1月から2月末日目途 (進行中)

参加者：基本研修を修了し、評価①で審査された介護職員141名

内容：介護職員が医師の指示のもとで、ケア対象者へ、指導看護師の指導を受けながら、
たんの吸引及び経管栄養を実施

ケアごとの実地研修実施率
(2月14日時点)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■100%以上 ▨80-99% ▩50-79% ▪20-49% □1-19% □未着手(0%)